

GOB-IP 宣言書

- 忍耐強い資本が求められる時代におけるパイフワード経営を目指して -

2017.07.03

GOB Incubation Partners 株式会社
Co-founder 久保 隼、櫻井 亮、山口 高弘

我々が、若者を起業家として育て社会に輩出する会社を設立して大凡三年が経過いたしました。

当時何者でもなかった我々が、未来に向けて試行錯誤しながら社会実験的な取り組みを実践しようと小さな一歩を踏み出したのは、渋谷にある Co-working スペースの一角でした。

あるべき社会を夢想した山口と櫻井が久保隼と意気投合し、三人でのスタートを決意し、そこから志を持つ人材が少しずつ集積し、事業が萌芽し、その芽を育成し、時に様々な厳しさに耐えながら若い起業家の養成と事業開発に集中してまいりました。

現在、弊社からいくつかの事業が世の中に離陸しようとしている最中であります。我々は今回、一法人という存在を大きく超越し、未来に向けて日本ならびに世界に必ず必要となる提言をすべく、GOB Incubation Partners という法人を代表して筆を取りました。

その提言とは、莫大な金銭的リターンには全く関心を示さないが、社会に大きなインパクトを与えるために心身を削り努力する意志のある若者が起業家へと向かうためのプラットフォームを通し、社会に意義ある事業を続々と生み出せる社会を実現することであります。また、その提言を自ら実践すべく、この法人において若者を対象とした人材養成・事業開発を行うプラットフォームの構築を推進してまいりました。

私たちは、まさに今、我々の考える理念、そこに込めた想いをみなさんと共有し、社会のあるべき姿、その提言を高らかに謳うべき時期にあると考えております。

その内容を、未来に向けて社会に問う GOB-IP の宣言書という形で皆様に宣言いたします。

1. 我々 GOB-IP とは、莫大な金銭リターンには関心がなく現時点では起業意志はないが、際立った才能を社会で活かしたいという想いを持つ若者が起業家へと向かう新たなルートを生み出す会社です

弊社の推進するビジョンは、“Get out of the Box” です。若者が枠にはまった安定的なルートを歩むことによりその才能が埋もれたままとなることを回避し、枠から飛び出し世の中を変えるための新たなルートを生み出します。また、我々は社会を変革したいと願う若者の志向性を熟知しています。彼らにとっては先端技術やトレンドは全て手段であり、目的は人々の生活が今より確実によくなることです。このため、我々が保有する事業は、子育て、教育、食・農、スポーツ・ヘルスケア、仕事・働き方、福祉・介護、共生社会、繋がりなど、全て生活に根ざしたソフトイノベーションを志向しています。

ビジョンや理念、ターゲット、生み出している事業や提供しているサービスなどを含む、我々の存在についての詳細は、ぜひ弊社のウェブサイトをご覧ください。<http://gob-ip.net/>

2. 我々が社会で担うべき役割は、「農耕型インキュベーション」におけるプラットフォームの構築、および推進です

- ・ 農耕型インキュベーションとは中規模・中期間で実現する事業育成・投資のエコシステムを指す

我々は「農耕型インキュベーション」というプラットフォームを標榜し、構築・推進をしております。農耕型とは、お米を育てるように時間をかけて事業家及び事業を育てるというアプローチです。

それは3つの要素から成り立っており、教育とインキュベーション(事業支援)、シードファンディング(事業立上げに向けた投資)で構成されています。二年から三年という事業育成としては中期の期間をかけて、中規模のビジネスを生み出すことを目的としております。この中規模・中期間がこのインキュベーションプラットフォームの特徴となっています。

- ・ 農耕型インキュベーションは、狩猟型のアプローチとは思想の根底が異なっている

なぜこの農耕型のプラットフォームが特徴的であるかという、我々が敢えて農耕型と表現するように、世の中には狩猟型のアプローチでプラットフォームを構築している存在が、多く存在しています。

狩猟型のアプローチとは、最初は多くの起業家候補にモチベーション高く、薄く広くたくさんの投資をすることによって進めます。しかし、結果的には一部の事業家のみが生き残り、その他の多くの人間は屍（失敗し放置されるか、頓挫して解散すること）となります。結果、残った一部の人材に大きく投資を集中させるアプローチです。残念ながら一握りの大成功のために本当に数多くの屍の山が作られており、過度な期待に応えられる、非常に優秀なごく一部の人間がいかに早く大成功を収めるか、というゲームになっています。投資家も起業家も、とにかく勝ち抜いたものが全ての栄光と成果を根こそぎ持ってゆくゼロサムゲームです。この、投資をかけるべき人材をいかに原石の状態で獲得できるかが狩猟型における投資家の仕事であり、水辺から飛び立つ水鳥を狙い撃ちする狩猟のように、いかにレバレッジをかけられる逸材を狙い撃ちできるのかがポイントとなります。

この確率論に基づく狩猟型のインキュベーションは、社会への効果もあります。それは世の中のフロンティアを開拓し、社会を変えてゆく大きな力の源泉になり得る人材や法人を生み出すことが挙げられます。けれども、このアプローチは当然、弊害もあります。ともすると格差を大きくし、社会を不安定化させるアプローチになり得てしまいます。

狩猟型ではない農耕型のアプローチをとる理由は至ってシンプルです。狩猟型のアプローチだけでは人々の生活にダイレクトに関連する課題解決に光が当たらないためです。狩猟型は世の中のフロンティアを拡大はさせますが、足元を見ることをしません。世の中のフロンティアを拡大する狩猟型だけでなく、私達の生活を支える足元をよくするための事業を生み出す環境、もしくはその器を、創り出したい、我々はそう考えて敢えて我々のアプローチを「農耕型インキュベーション」と名付けています。

- ・ 世界を見渡しても、未だ明確に狩猟型に対する代替となるべき存在は現れていない

このいびつな格差や不安定な社会を良しと思っていないプレーヤーも少なからず存在していますが、我々から見るとそれらの存在も未だに狩猟型のルールの中で戦っているように見えます。

また、一部、google 社のような民間企業一社で社会全体を安定させるようなことに挑戦している素晴らしい企業もありますが、多くの場合、この狩猟型そのものに対する対案としてのアプローチがありません。つまり確率論での社会進出、一握りが大成功でそれ以外が大失敗するというのではなく、ひとりひとりの事業家の志を熟成させ、社会に多様な挑戦を生み出すアプローチは、世の中にまだ存在できていないと考えております。

一方で、狩猟型の対案を担おうとすると、現時点においてはNPO、NGOもしくは財団と言ったプレーヤーがその役割を実践しようとしていますが、やはりビジネス上の迫力が足りないと言わざるを得ません。

ゆえに、我々は、狩猟型と同じビジネスでのアプローチをとりつつも、多産多死・短期高利益追求の狩猟型ではない、中規模中期間での事業熟成を行う農耕型のインキュベーションのアプローチを世の中に提唱したいという意思を強く持ち、農耕型インキュベーションを推進しております。

3. 我々は、ペイフォワードを前提とした新たな社会投資としての資金調達を目指します。

- ・ 今こそ忍耐強い資本が必要

一部の才能を篩（ふるい）にかけて短期で事業を成長させる狩猟型ではなく、時間をかけてお米を育てるように事業家及び事業を育てる農耕型アプローチには、人材育成や事業開発のみならず、事業資金面においてもより忍耐強い資本、寛容な資本が不可欠となります。単に儲け優先の、資金を提供すれば短期間で最大のリターンを得られる、という資金の集まり方ではなく、自分たちが信じた未来に向けて、自分たちや大切な人たちの子どもに向けて、その孫に向けて、自分たちの社会がより良くなるということを感じて、時間を許容する投資ができる新しい社会投資の資金の循環がこれからの社会にとって何よりも重要になってゆきます。

これを、我々は「ペイフォワード（今の自分への利益ではなく、将来に向けて利益を生み出す）型の資本」と呼んでおり、これは、単に強欲な形で私腹を肥やす資本ではなく、あなたが大切な人の未来を良くする資本であると考えております。

- ・ 我々GOB-IP社は自らペイフォワード投資型の事業を推進している

我々は、自社利益確保のサービスとして新規事業開発のコンサルティングやイノベーションにまつわるトレーニングなどを民間企業各社に向けて提供しています。本来我々が得たこの事業利益は、投資家であるファウンダー、そこに集まる社員たちに還元されてしかるべき利益です。ところがこれをGOB-IPでは、若者が事業を生み出すための教育と事業支援の資金に充てています。当然ビジネスを行うための本来の人件費をかけており、そこにはコストも生じていますが、それらの最低限のコストを除いた全ての資金は、若者の事業開発、人材育成に充て、現在もペイフォワード型の資金を循環させています。

また、我々はインキュベーション(事業支援)期間において、社内ベンチャーとしての事業部での活動期間とその後の完全子会社期間を設けております。その理由は、事業立上げの時点ですぐに法人を設立することは、「会社そのものを維持」しながら「事業を成立させ拡大させてゆく」という二兎を追うことになり、若い起業家にはその両輪を舵取りすることは極めて困難であるためです。事業に持続可能性が見出せた後は、完全子会社から卒業し、いずれMBO(Management Buy Out、事業推進者である起業家が自ら会社を買取り、起業家自身がオーナーとなる)という形で社会に輩出してゆくこととなります。その際、GOB-IP社と起業家はキャピタルゲインを得ますが、そこでのゲインも小規模から中規模を検討しており、また獲得した利益はプラットフォームを拡充するために再投資資金として充当し、資金が後世に循環してゆくことを計画しております。

これらの計画と行動は全て、我々の会社そのものがペイフォワード型の事業推進をしているから生み出される姿勢です。

- ・ 社会変革を果たすためのスケールには原資が足りない

我々はこの活動を、今よりももう少し野心的に、狩猟型によって生み出される巨大企業の躍進と同じ程度の加速度と力強さで、育成した事業の離陸をさせてゆきたいと考えております。その数は、今後十年で凡そ100社を生み出したいと考えております。その100社の中から、次の社会変化のインパクトを生み出すような企業を輩出してゆきます。

ただ、率直に言って、この目標の達成のためには、自前で企業向けコンサルティングやトレーニングで得た資金のみで事業家育成・事業開発を進めている、現在の我々自身のペイフォワード型の事業推進だけでは、資金が足りません。

だからこそ、皆さんの多くの意志に基づいた資金を集め、我々だからこそ推進できる、ペイフォワード型の資金調達を実施してゆくことを強く打ち出してゆきます。

現在弊社は、従前の資本主義の世界から資金を獲得し、それをペイフォワード型の資金に転換しております。しかしこのアプローチのみでは、現状の事業推進の延長線上に留まり、十年で100社の輩出には到底達しないと考えております。

また、我々がこのようなペイフォワード型の資金調達と資金投資に挑戦する理由は、単に個社企業の成功を夢見るといった小さな理由にのみならず、この「ペイフォワード型の資金投資・資金調達」を社会に向けて提言をし、「社会の当たり前の選択肢」の一つにしてゆきたい、という意味も込められています。

では我々がどのようにペイフォワード型の資金調達を行うのか、どのようにして皆様にその意思を表明していただき、ペイフォワード型の投資をしていただくのか、という具体的な投資方法ですが、弊社が発行する「種類株式」を保有していただくことによりその想いを形にすることを実現いたします。

4. 我々はペイフォワード型の投資として、応援してくださる個人の皆様に向けてGOB-IPの「種類株式」発行という手段を提案いたします

- ・ 忍耐強い資本が求められる時代における5万円からできるペイフォワード投資

改めて我々はこの忍耐強い資本への参画方法を“ペイフォワード投資”と呼んでおり、投資いただく対象を個人としています。狩猟型投資のメインプレーヤーであるVCや金融機関ではなく、我々のビジョンに共感いただける「顔・意思の見える」個人の皆様から、資本多数決による短期利益追求ではない、文字通り将来の社会をよくなるための投資をお願いしたいと考えております。そこで、個人一人当たりの投資への負荷を可能な限り軽減するために“5万円からのペイフォワード”として、皆様への参画を呼びかけたいと考えました。

なぜそんな挑戦をしようとしているのか。

それは、先述したように GOB-IP 社はすでにペイフォワード型の資金調達をしており、自分たちが得た資金を自らの懐が潤う利益として使うのではなく、未来の社会を変える可能性のある事業の開発に充当することが、農耕型インキュベーションで育成する事業を熟成させるために非常に有効な手段であると強く実感しているためであります。

ただ、たった今、産声を上げたばかりである弊社が、この「農耕型インキュベーション」の社会的意義をより力強く提言し、確実に推進してゆくためには、規模とスピードを格段に増してゆく必要があります。そして、我々に賛同し、応援して下さる多くの皆様の後押しが必要です。

単に離陸する事業に利益目的の投資金を賭けるのであれば、従前の狩猟型のやり方と変わりません。我々は自分たちで仮説検証してきたこのアプローチが、社会にとって効果が見いだせる方法である、という実感に変わりつつあり、スポーツの世界でいう「型」が見えてきました。

このため、今、がこのアプローチをスケールさせるタイミングであると判断しました。スケールさせるためにはペイフォワード型の資金調達をしてゆくべきである、という結論に達し、今、この宣言をするに至っております。十年で 100 社には到底届かないような規模で推進するのではなく、圧倒的な存在として日本で、世界に向けてこのアプローチを提言してゆきたい。そう考えております。

どのようにこのペイフォワード投資をするのか、という具体的な仕組みが、実は日本において会社法改正により提供されている「種類株式」というものの提供にあたります。現状の日本社会ではほとんど活用されていないこの種類株式という方法を活用して、我々は皆さんと一緒にペイフォワード型の資金調達を実現したいと考えております。

- ・ 社会を構成している一人一人が社会変革を実感し、明日から実践できるペイフォワード投資

繰り返しになりますが、狩猟型の対案が世の中にはありません。

ビジネスとして迫力を持ちつつ(経済的にも成り立ち)、世の中のフロンティアを拡大するだけでなく人々の生活を安定化させる、世の中の不安定さを安定させる(社会的にも価値が大きい)ためのアプローチをとれる存在が極めて少ない現状です。

なぜなら、社会的価値を生み出すことと、経済的に成り立つことの価値の両立には、大変な時間の投資が必要だからです。このため、忍耐強い会社にするための、忍耐強い人材の存在が不可欠であり、そこには忍耐強い資本が必要です。この忍耐強い資本というのが、ペイフォワード型の資本であると我々は考えております。

あなたの今の豊かさをより豊かにするための投資ではなく、未来の大切にしたい人や社会への豊かさを生み出すための投資。今、投資をして、未来に向けてペイフォワードしてほしい。これがペイフォワード投資なのです。

みなさん、ぜひ、狩猟型ではなく農耕型で人材と事業を輩出する、そのための忍耐強い資金投資・資金調達を実現する側の一員となり、共に社会をよりよくなる同志になっていただきたいと切に願い、我々、GOB-IP としての宣言文の筆を置かせていただきます。

2017 年 07 月、蒸し暑くなり始めた初夏を感じる梅雨の季節にて
Co-Founder 久保隅、櫻井、山口より